

生徒発表 2

グローバル社会を担う次世代のスペシャリストを目指して

— 日本一の海事都市今治を担う地学地就による人材育成 —

愛媛県立今治工業高等学校 機械造船科 3年 白川 光志・村上 竜斗

1. 事業の概要

本校では、地元で学んだ生徒が地元で就職し、地域経済の発展に寄与するいわゆる「地学地就」をキーワードに、「船づくりをモデルケースとした地学地就による次世代スペシャリスト育成プロジェクト」に取り組んだ。事業年次ごとにテーマを設定し、地元造船会社や船用工業等と連携した船舶に関する確かな知識・実践的な技能を身に付ける取組、大学や研究機関等と連携した高度な技術を身に付ける取組を実施した。

年次	事業年次ごとのテーマ
《1年次》	グローバル社会を担う海事産業への夢を抱き、専門分野の基礎・基本を身に付ける
《2年次》	船舶産業分野の仕事への理解を深め、確かな知識・実践的な技能を身に付ける
《3年次》	船舶工学の最新技術にアプローチし、専門分野の高度な技術を身に付ける

2. 具体的・特徴的な実践内容

(1) 《1年次の取組》

ア 造船所見学・船の進水式探究

船のスケールを実感し、グローバル社会での役割を理解することをねらいとし、タンカーの構造説明・船台での進水式の見学を行った。企業の方から「生まれ育った場所で活躍できる仕組みづくりこそ地方創生。地域が協力して次の世代を育てていかなくてはならない。」という意見をいただいた。大変興奮する経験



で、地域への関心が高まり、地元で船づくりに携わりたいと思った。また、グローバル社会を担う船の役割の大きさを実感した。

イ 造船技術探究フィールドワーク

造船会社等の見学を通して地域産業への理解を深めることをねらいとし、地元造船会社などにおけるフィールドワークを行った。自分の住む地域の産業を誇りに思い、造船会社の広さに驚き、今治地域の造船業がいかに素晴らしいか、改めて学ぶことができた。



(2) 《2年次の取組》

ア 卒業生等とのディスカッション

職業人としての意識を学ぶ・地域産業への理解を深めることをねらいに「地域産業への理解の深化」というテーマでディスカッションを行った。地域の産業を紹介していただくとともに、「指示待ち人間ではダメ。自分で考え率先して動く」とい。等、仕事の進め方に関する助言や、人の繋がりの大切さ、仕事のやりがい等を教えていただいた。「仕事をする上で失敗から学ぶことはとても大切」との言葉が心に響いた。



イ 全長8mのダンボール船の制作

生徒の主体的・協働的な活動の実践をねらい、実際の船舶の図面に基づいて計画・部材の切り

出しブロックの制作・ブロックの搭載を行った。クラスメイトの発案で始まり、作業は大変だったが、取り組むうちに充実感を感じ、最後に作品ができたときには、達成感を味わうことができた。また、船舶に関する知識を身に付けることができた。



(3) 《3年次の取組》

ア 地元企業の技術者等による「匠の技継承講座」
働く方々の技能の高さを実感し、仕事に対する姿勢を学ぶことをねらいとして、ぎょう鉄作業の「匠の技」実演・生徒への実技指導をしていただいた。講師の方の実演を見てから自分も取り組んでみたが、全く違っており、とてもすばらしい技だと思った。



イ 造船技術研究プログラムⅢ

船舶の研究への関心を高め、基本的な知識を身に付けることをねらいに地元造船会社の研究施設で模型船の抵抗試験を行った。研究所の方々の指導のもと、自分たちで模型船をセットして測定を行うと、船首バルブの有無で抵抗に大きな違いが出た。このことから、船型の重要性について理解が深まった。



ウ 造船技術探究フィールドワークⅢ

船舶についての高度な技術への理解を深める

ことをねらいに広島大学試験水槽における模型船の抵抗試験・船型の解析を行った。船舶の高度な技術について、自分たちが製作した模型船を用いて学べたことが、とても嬉しかった。また、船首バルブの形状の、少しの変形が、抵抗の大きさに、大きく影響することを学んだ。



3. 成果と今後の課題

3年間のSPH事業の取組により、地元での船づくりに徐々に興味・関心が高まるとともに、船づくりの技術・技能や、仕事をする上で大切なことについて深く学ぶことができ、船舶の高度な技術にもアプローチできた。また、初めは学校外の方々から直接指導を受けたり話をしたりすることに戸惑いがあったが、実践的な取組を行う中、次第に楽しく活動できるようになり、活動を通して将来の目標や夢が明確になると、モチベーションが上がり、船舶の建造について学ぶ意欲が高まった。

卒業後も3年間SPH事業で学んだことを生かし、次世代のスペシャリストとして地域の産業界で活躍できるよう精一杯努力していきたい。

4. おわりに

今回、さんフェア山口2018に参加して、他の学校が、特色ある様々な取組を行っていることを知り、とてもいい刺激になった。それぞれの学校が高度な専門分野の内容に挑戦しており、魅力的な活動が多く見られた。このような機会を与えていただいたことに感謝し、更に高度な技術・技能に挑戦し、研究を深めていきたい。

工業教育資料 通巻第 385 号
(5月号)

2019年5月5日 印刷
2019年5月10日 発行
印刷所 株式会社インフォレスト

© 編集発行 実教出版株式会社

代表者 小田良次
〒102 東京都千代田区五番町5番地
- 8377 電話 03-3238-7777
<http://www.jikkyo.co.jp/>